

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校（図画工作科）編 ① 概要

校種・学年	小学校・2学年	教科等	図画工作科
題材名	大発見！まぼろしのえのぐじま		
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・筆でかく感覚や行為を通して、形や色などに気付く。 ・身近で扱いやすい筆や共同絵の具に十分慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。 〈知識及び技能〉 ・絵の具でかいた形や色などを基に、自分のイメージをもつ。 ・様々に筆の動かし方を考えながらかく活動を通して、感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、色々な形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。 ・自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいことや表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 ・楽しく筆を動かして絵に表現したり、鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉 		
本時の目標	様々に筆の動かし方を考えながらかく活動を通して、感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、色々な形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。		
本時の評価規準	<p>発 様々に筆の動かし方を考えながらかく活動を通して、感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、色々な形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 【思考・判断・表現】</p>		

事例の概要（見どころ）

- ① 題材の導入において、低学年児童が、表したいことを見付けること、どのように表すか考えることを意識した授業実践です。
- ② 授業改善の視点として、「児童が学習の見通しをもつ導入」、「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる場の設定」「児童が本時の目標に即した振り返りをする終末」を意識した授業実践です。

発行：令和8年3月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>



P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 小学校 図画工作科 編 ② 指導展開

📌 目標

- ・様々に筆の動かし方を考えながらく活動を通して、感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、色々な形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。

〈思考力、判断力、表現力等〉

📌 準備

【児童】ICT 端末

【教師】画用紙、共同絵の具、絵の具入れ用の瓶、筆、大型モニター、ICT 端末

📌 展開 (1 / 3)

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿 (「」)	授業改善の視点	評価と手立て 【観点】: 評価規準(評価方法) ◎十分満足できる状況 ◆B評価に達しない児童への手立て
導入 7分	1 えのぐじまの情報がかかれている新聞を読み、活動への興味をもつ。 「新しい島が発見されたんだって！」 「飛行機から見えたんだって！」 「船から見た人もいるよ！」 	【授業改善の視点1】 ※主体的な学びと関連 日頃から児童の様子をよく見たり対話したりすることを心掛け、一人一人の児童がどのようなことに興味や関心をもっているのか、何を楽しいと感じているのかななどを把握しておくことが重要です。 	
展開 28分	<p>提案：えのぐでかいた形や色からまぼろしのえのぐじまを見つけよう</p> 2 活動の見通しをもち、様々に筆を動かして生まれた形や色から感じたことや想像したことを基に、表したいことを見付けたり、表し方を考えたりしながら表す。 「えのぐじまはどんな島なのかな。」  「筆をどのように使おうかな。」 	【授業改善の視点2】 ※主体的な学びと関連 造形活動そのものを楽しむ傾向を生かし、夢中になって絵をかくなど、児童の意欲が高まり、継続するような指導を行うことが重要です。 	【思・判・表 発】 絵の具でかいた形や色などを基に自分のイメージをもち、様々に筆の動かし方を考えてかく活動を通して、感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、色々な形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 (行動観察・対話・表現) ◎独創的、連続的に、表したいことを見付け、どのように表すか考えている。 ◆他の児童が表す様子と一緒に見て回ったり使ってみたり色は何色か等対話したりする。

「この色とこの色をつかうとどうかな。」



「さらにどんな島にしていこうかな。」



「白を重ねるとこんな風になるよ。」



「こんな風に筆を動かすとどうなるかな。」



「何色を使おうかな。」



「だんだん表したい島になってきたぞ。」



終末10分

3 表したまぼろしのえのぐじまに仮の名前を付け、自分が見つけた島について児童同士で話し合う。



【授業改善の視点3】※対話的な学びと関連
友人の話をもそのまま自分の気付きのように捉え、直ちに自分の表現や作品の見方に取り入れたりする姿もあることから、このような姿を指導の過程において生かすことが大切です。



自然に他の児童の作品を鑑賞し合いながら、対話することで、新たな気付きを得るなどして、表したいことを見付けることや表し方を考えることにつなげています。

【授業改善の視点4】※深い学びと関連
豊かなイメージにつながるような体験を設定することが重要です。イメージは、生まれてからこれまでの経験と深く関わっており、児童は、そのときの感情や気持ちとともに、自分のイメージを心の中に浮かび上がらせています。このことに留意し、学習活動全体を考えることが重要です。



えのぐじまについて想像したり、絵の具の色を自分で選んで実際にかいたりしながら、自分のイメージを更新させ、夢中になって造形的な見方・考え方を働かせ、表したいことを見付けたり、表し方を考えたりしています。

【授業改善の視点5】※深い学びと関連
児童がもっているイメージを捉え、具体的に把握し指導に生かすことが大切です。例えば、児童が自然に発する言葉に着目したり、児童がかいた絵などから読み取ったりすることなどが考えられます。



まず、児童の活動を見守ることで、児童の学びの状況を捉えています。その状況に応じて、児童の造形的な見方・考え方が働くように問いかけたり、児童の活動について価値付けたりするなど、意図を明確にもって児童と関わっています。

【授業改善の視点6】※個別最適な学びと関連
児童が自己調整しながら学習を進める個別最適な学びを意識し、場の設定をすることが重要です。



児童は導入時に場の使い方を理解し、自分が使いたい色を自分で選んでいます。また、他の児童の作品を見たり、話をしたりしながら、じっくり表したいことを見付けたり、表し方を考えたりする活動をしています。

【授業改善の視点7】※協働的な学びと関連
他者とよりよい学びを生み出す協働的な学びを意識し、子供と子供をつなぐ働きかけが重要です。



児童は導入時に友達との関わり方について理解し、他の児童の活動の様子や作品を見て、気付いたよさを伝え合い、互いにすてきな島が表されていることへの喜びを分かち合っています。

【授業改善の視点8】※主体的な学びと関連
感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動を充実させることが重要です。



どのようにして表したいことを見つけたのか、どのように考えて表したのか、または作品の楽しいところや面白いところを伝え合うことで、本時の学びを自覚しています。